

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	診療の補助技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	(30) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限		教室名	
担 当 教 員	青 美智子	実務経験と その関連資格	救急看護認定看護師			
《授業科目における学習内容》						
基礎看護学技術Ⅱの診療補助技術とは相対的医療行為であり対象者にとって身体侵襲を伴う行為である。そのため、医療事故を未然に防ぐリスクを認識し対象者への説明力と、正確性・安全性・安楽性が求められる。そのため、看護技術の原理原則を踏まえた基礎知識を活用し安全を考えた援助を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)、根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと 授業終了時に示す課題を実施しておくこと 前回授業内容について復習をしておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
診療の補助技術の内容を理解するためには、1年生で学んだ生体機能学、病態と治療の知識が必要です。講義内容に関連した既習知識を復習して講義に臨みましょう						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体検査(X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査、超音波検査、核医学検査について理解し、検査時の看護が説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	X線撮影、CT検査の概要、検査時の看護(放射線暴露防止含む) MRIの概要と検査時の看護 超音波検査の概要と検査時の看護 内視鏡検査の概要と検査時の看護(上部消化管検査) 核医学検査の概要と検査時の看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺の概要を知り、介助の実際を説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	胸腔穿刺の概要と介助方法、腹腔穿刺の概要と介助方法、腰椎穿刺の概要と介助方法、骨髄穿刺の概要と介助方法、			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	検体検査(血液検査・尿検査・便検査・喀痰検査)について理解し、それぞれの検査時の看護について説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	症状・生体機能管理技術の基礎知識 血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)の目的と援助 尿検査の目的と援助、便検査の目的と援助、喀痰検査の目的と援助			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	検体検査(血液検査:静脈血採血)が、知識を基にしてモデル人形に実施できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	真空採血管を用いた静脈血の採血方法の実際 翼状針とシリンジを用いた静脈血採血方法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬剤の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	剤形と吸収経路 与薬に関する看護師の役割 経口与薬、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬の援助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	与薬の特徴を理解し援助方法について説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	経口与薬、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬の与薬方法、留意点		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	生体情報のモニタリングの意義 心電図検査、心電図モニター、Spo2モニターそれぞれの目的と援助		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	注射の基礎知識について説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	吸収速度、使用物品 注射針と注射筒の構造、取り扱いの注意点 注射の実施上の責任		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	注射の種類と方法、留意点について説明できる。	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	注射の種類と特徴、吸収速度、使用物品		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	中心静脈カテーテル留置の目的と介助方法、管理の基礎知識を理解し、援助の実際を説明できるについて説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	中心静脈カテーテル留置の目的と介助方法 中心静脈栄養の実際とカテーテル管理 輸血の種類、目的、副作用		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	点滴静脈注射の準備の実際と観察方法が説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	点滴静脈注射の実際、プライミング、留置針の構造 筋肉注射部位の確認、三方活栓の取り扱い		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	輸血管理の基礎知識を理解し援助の実際と観察方法が説明できる。	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	輸血の種類、目的と副作用、輸血の事故防止、輸血の援助の実際		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	酸素吸入量法、吸引の援助について説明できる。	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	酸素吸入量法の目的、種類、留意点		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	酸素吸入量法と吸引を安全に実施できる。	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	鼻カニューレ及び酸素マスクを用いた、酸素投与方法を習得する。口腔内・鼻腔内吸引がモデル人形に実施する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	死にゆく人と家族の心理を理解し、どのような援助が必要か説明できる	教科書、根拠と事故防止からみた基礎・パソコン、プロジェクター、	次回の授業に関連する内容を予習し授業に臨む
		各コマにおける授業予定	死亡の動向と場所 家族を含めた死の看取り 死後の処置のありかた		